独立型社会福祉士実践のためのスーパービジョン支援ツール

○和歌山信愛女子短期大学　御前由美子（07258）

安井　理夫（関西福祉科学大学・04944）、小榮住　まゆ子（椙山女学園大学・06307）

西内　章（高知県立大学・03704）、伊藤　佳代子（別府大学短期大学部・05334）

溝渕　淳（広島文教女子大学・04505）、長澤　真由子（広島国際大学・04935）

キーワード：独立型社会福祉士、ソーシャルワーク、スーパービジョン

１．研 究 目 的

組織から独立をしてソーシャルワーク実践を行う独立型社会福祉士の活動には期待が寄せられているにもかかわらず、実践の専門性が不明瞭であることが指摘されている（太田・安井・小榮住：2010）。また、独立型社会福祉士の実践に対する社会的評価はけして高いとはいえず、経済的基盤の脆弱さも問題となっている。このため、福祉サービスに対する第三者評価の調査や成年後見制度の後見活動などの本来の専門的業務ではない活動によって経済面を補っている独立型社会福祉士も多い。このような結果、実践の専門性が一層不明瞭となり、一層社会的評価を得られないという悪循環に陥っていると考えられる。

本来、独立型社会福祉士に期待されている専門性あるソーシャルワーク実践の質を担保していくための中核として考えられてきたのがスーパービジョンであり、これまでにも現任研修などにおいて実施されてきた。しかし、その内容の多くは、事例検討や面接時の記録をもとにしたスーパーバイザーの経験による助言指導である。これまでに実施された独立型社会福祉士に対するアンケート調査やインタビュー調査（科研費基盤（C)「ソーシャルワークの固有性にねざした独立型社会福祉士の開業システムの構築」平成 22、23、25 年）では、その研修内容を検討する必要性が明らかとなっている。

独立型社会福祉士がその実践への期待にこたえるためには、まず、セルフスーパービジョンとそれをふまえたグループスーパービジョンが重要であると考えている。そこで、本研究では、独立型社会福祉士のスーパービジョンに活用できる支援ツールを開発し、スーパービジョンの方法を具体化することを目的としている。

２．研究の視点および方法

以下のような方法で研究を行っている。

①＜文献調査＞独立型社会福祉士の現任研修システムやスーパービジョン方法について文献よりその現状を把握する。

②＜インタビュー調査＞独立型社会福祉士に対するインタビュー調査を実施し、研修会シ

ステムやスーパービジョンについてのニーズや課題を把握する。

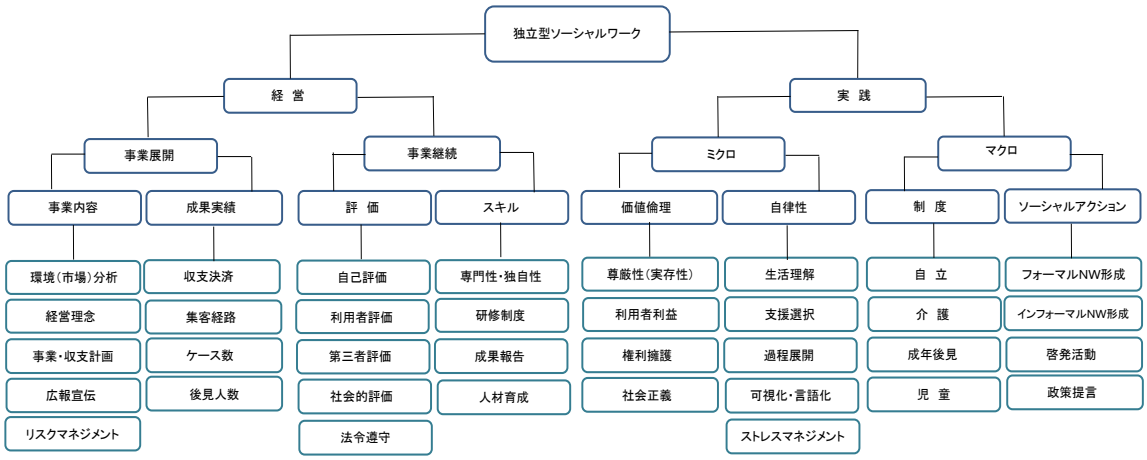
③＜支援ツールの開発＞本研究は、ジェネラル・ソーシャルワークに依拠しており、エコシステム構想によるコンピュータ支援ツールを用いる予定である。このため、その支援ツールにもりこむ内容や質問項目を具体化する。

３．倫理的配慮

本研究における引用・参考文献等については、著作権保護にもとづき、研究目的以外に使用しないことを誓約する。また、日本社会福祉学会の研究倫理指針を遵守し、インタビューを実施した人物のプライバシーにかかわる内容に対して配慮を行う。

４．研 究 結 果

独立型社会福祉士の実践における特性として、まず、経営と実践に大きく分けることができる。経営面では、事業を継続していくことに加え、事業をどのように展開していくかも重要であることから、これら２項目で分けた。また、実践についても、ミクロとマクロの２項目で分け、支援ツールに盛り込もうとしている項目の選定を以下のように行った。



５．考 察

支援ツールを個人で活用する場合は、自分自身の実践を具体的に振り返ることができる。さらに、グループで活用した場合は、このデータがお互いの実践について話し合う材料になると考えている。また、支援ツールの項目についてであるが、全体を通して「ネットワーク」は重要であるが、経営の事業展開では集客経路が、また、実践のミクロでは利用者の生活理解における方策として、ネットワークが含まれていると考えている。しかしながら、項目についてはさらなる精査が必要である。このため、今後は、この選定した項目をコンピュータ支援ツールに盛り込んだうえで、独立型社会福祉士とともに検証作業を行っていく予定である。さらに、独立型社会福祉士のスーパービジョンについて、具体的な方法と現任研修プログラムを提示していきたいと考えている。